

# ビフォー・ジ・エンド

小宮 一仁

最近、大学生の時にカントや西田幾多郎の本を読んで、彼らは「他者は全て自分である」と説いているのではないかと考えたことを思い出しました。

例えば、燃えている火の中に手を入れる人はいません。なぜなら火は熱いと知っているからです。ただ、火に手を翳さないことは、人が生まれた時に身につけている能力によるものではなく、その後の学習によって理解し行われる行為です。燃えている火が熱いということは自分で経験するか教えて

もらわないと分かりません。最初に見た時は火が熱いということを知らないので、興味本位に手を翳すかもしれません。触ると熱く、場合によっては火傷をします。こういう経験から、人は火を触ってはいけないと学習しておぼえます。火が熱いことが分かった人でも、熱く熱せられた石があると触るかもしれません。その時、熱した石も火と同じように熱いことを知ると、以後、熱した石を触らなくなります。生まれた時に備わっている天賦の才能だけでは、触るか触らないかという判断をすることはできず、できるのは、触った後で熱いと感じることと、無意識のままに声を上げたり、反射によって手を遠ざけることだけです。実は、天賦の才能だけでは、火は熱いということの、火という認識すらありません。

この例のように、人の認識や行動は、自らが学んだことの組み合わせで成り立っているに過ぎません。つまり、自分が見ている他の人も物も全て自己の認識と学習から成り立っていることになります。

現在までの経験や体験によって形成される人類の意識や行動は、将来のための制御に対しては懦弱で、危機の経験が

すぐに薄れてしまう性質を持っています。東日本大震災の時に、過去の津波被害の経験から津波の到達点に建てられていた「ここよりも低い所に住んではいけない」と刻まれた石碑がたくさん見つかりました。それらの石碑よりも低いところに住んでいた大勢の人が津波の犠牲になりました。私は、新型コロナウイルスが猛威を振るっている今は、人類がそういう弱さを持たないことを願っています。

新型コロナウイルスの感染が終息した未来は、グローバル化がさらに推進されているのか、遠い昔に逆戻りしているか、それはわかりません。しかし、逆戻りした場合も、これほど情報通信技術や人工知能が使えるようになった時代では、過去の特定の時代の経験や歴史や価値観はあまり役に立たないでしょう。

先が読めない時、どういう行動をとったらいいか決められない時、こうすれば間違いがないということがひとつだけあります。それは、次世代の利益になる行動をとることです。これは、人間だからこそできる選択です。経済、社会、全てが大きく変わる今こそ、皆がこれからの社会、変わる社会の

ための行動をとることが必要だと思います。見えているもの、  
認識しているものは全てが自分、想像する未来もまた自分な  
のですから。

令和2年7月16日